

年 頭 所 感

一般社団法人 全国信用組合中央協会
会 長 渡 邊 武

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

令和2年の初春を迎えるに当たり、関係各位には、旧年中に賜りましたご支援・ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は、8月の九州北部の集中豪雨に続き、秋には台風15号・19号等台風の上陸が相次ぎ、暴風雨や河川の氾濫等により、各地の信用組合やその取引先にも甚大な被害が生じるなど自然災害が多発した年になりました。

また、わが国経済は、輸出が引き続き弱含み、製造業を中心に弱さが一段と増しているものの緩やかに回復しているなかで、海外環境に目を転じると、米中貿易摩擦など通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の動向など、さまざまな不確実性が存在しており、海外発の経済の下方リスクにはより一層注意が必要となっております。

一方、中小・小規模事業者の業況は、深刻な人手不足や人件費の上昇、仕入れコストや光熱費の増加が業種を問わず、広く業況の押し下げ要因になっており、先行きは不透明なものとなっております。

また、長引くマイナス金利のもとで、預貸金利鞘の縮小等により利益の確保がより困難となってきており、信用組合にとって厳しい経営環境は当面続くものと考えられます。

さて、本年の夏には、東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。インバウンド需要を中心に景気浮揚のきっかけとなることが期待されるところではございますが、大会後を見据えた経済対策も望

まれるところであります。

ここで、年頭に当たり、信用組合を取り巻く課題等への取組みについて申し述べたいと存じます。

(中央組織の一体化改革の推進について)

第一に「中央組織の一体化改革の推進について」でございます。

去年は、令和に元号が変わる、いわば時代の転換点を迎えた年になりましたが、信用組合業界においても全信中協は60周年、全信組連は65周年の節目の年を迎えるとともに、中央組織の一体化元年とも言える記念すべき年となりました。

信用組合を取り巻く環境は、中央組織の設立当初より大きく変化しており、新たなIT戦略の検討やコンサルティング業務等の取引先支援など、信用組合単体では対応が困難な課題が増加しております。このため、信用組合の自主的な取組みとともに、中央組織である全信中協と全信組連のサポート機能の充実・強化が急務となっております。

こうしたなか、3年の検討期間を経て、昨年、両組織設立以来の大改革として、経営・執行体制の一体的改革を実施し、新執行体制のもとで、両組織の再編と業務の見直し、さらに人事交流を行いました。

一体化改革2年目である本年は、信用組合業界の中央組織としてこれまで以上の緊密な連携のもと、共通目線による業務の一体的な運営により、的確かつ迅速なサポートを全力で行ってまいりたいと存じます。また、真に信用組合の役に立つ、また、期待に応えられる組織を構築していきたいと存じます。今後とも引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(信用組合を巡る環境変化への取組みについて)

第二に「信用組合を巡る環境変化への取組みについて」でございます。

わが国では、これまで経験したことがない少子高齢化の進展による労働人口減少や人生100年時代の到来という急激な環境変化を迎えているうえに、働き方改革、キャッシュレス社会の実現に向けた取組みが進むなど、社会構造が大きく変化し、信用組合に求められる役割も多様化しております。

こうしたなかで、信用組合は、地方創生・地域活性化を自らの課題として取り組んでいくことが重要であると考えております。すでに実施している信用組合もありますが、信用組合間の連携、地方自治体との連携をさらに推進していくとともに、地方創生に向けたSDGs（エスディーズ）、ESG投資等をはじめとする政府施策等の情報収集、さらには地域活性化に向けた信用組合の先進事例・好事例等の情報共有を行ってまいりたいと考えております。

また、超高齢化社会が抱える課題を踏まえ、行政が行っている認知症・高齢者対策等について積極的に情報収集するとともに、多様化する利用者のニーズに対応できるよう調査・研究を継続的に行うなど、各信用組合の取組みを支援する体制を強化してまいりたいと存じます。

いずれにしましても信用組合は、現下の厳しい環境においても、自らの強みを活かして、金融仲介機能を発揮し、お客様一人ひとりに寄り添った取組みを実践していくことが必要と考えております。

(サイバーセキュリティの強化について)

第三に「サイバーセキュリティの強化について」でございます。

サイバーセキュリティの確保については、喫緊の課題であるとの認識の下、官民が一体となって取り組んでいるところでございますが、インターネットバンキングに係る不正送金、暗号資産業者等への不正アクセス等による不正送信事案など犯罪手法も巧妙化するなかで、IT技術の高度化により新たなリスクを発生させています。

また、夏の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、サイバー

攻撃が懸念されており、サイバーセキュリティ対策の一層の高度化が重要となっています。

お客様が安心して金融取引を行っていただけるよう信用組合においても顧客属性等に基づくリスクの特定・評価を徹底するとともに、金融庁が実施する「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」などの機会を十分に生かしながら、業界として経営陣主導の下、実効性のある態勢整備に向け、取り組んでいく必要があると考えております。

(信用組合のブランド確立と知名度向上について)

第四に「信用組合のブランド確立と知名度向上について」でございます。

信用組合は地域・業域・職域の人々によって設立された協同組織の金融機関であり、その基本理念である「相互扶助」は不変であります。

本年においては、地域・業域・職域それぞれの信用組合の活動を積極的に紹介してまいります。

また、それぞれのコミュニティで、さまざまなお客様と向き合っている信用組合が、ひとつの金融業態として活動していることを強く訴求し、銀行や信用金庫などとの違いや、信用組合の優位性を明らかにすることで、信用組合の組合員だけでなく、広く世間一般で知名度向上を図ってまいりたいと考えております。

さらに、本会が昨年加盟しました「アジア信用組合連盟 (ACCU)」と交流・情報交換を行いながら、連携を深めてまいります。

日本がアジア各国、特に協同組織金融機関制度の立ち遅れている国に対してさまざまなサポートを行うことが、日本の信用組合のグローバルな知名度向上に資するものと考えております。

以上、年頭に当たり信用組合を巡る当面の課題等について申し述べ

ましたが、これら諸課題の解決のためには、個々の信用組合の取組みは勿論のこと、中央組織と会員信用組合とが深く連携し、業界の総合力を結集していくことが何より重要です。本会といたしましても、全信組連との一体化改革をさらに進め、地区協会等と緊密な連携のうえ、信用組合のご期待に沿えるよう、各信用組合のニーズを十分把握し、信用組合業界の諸課題の解決に積極的に取り組んでまいり所存でございます。

本会業務に対する皆様方のご理解とさらなるご支援、ご協力を切にお願い申しあげる次第でございます。

今年の干支は、「庚子（かのえ・ね）」でございますが、子年は、十二支の一番目に数えられ、新たな生命がきざし始める時期と言われております。

また、ねずみはたくさんの子を産むことから繁栄の象徴とされております。

現在、信用組合業界は厳しい経営環境にありますが、信用組合の特性を強化しつつ、さまざまな課題の解決に向け、新たな道を切り開き、業界の繁栄に向け邁進してまいりたいと考えております。

最後になりますが、本年が皆様にとりまして、より良い年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

以 上